

# 井戸ラッシュの大坂で環境省も調査へ

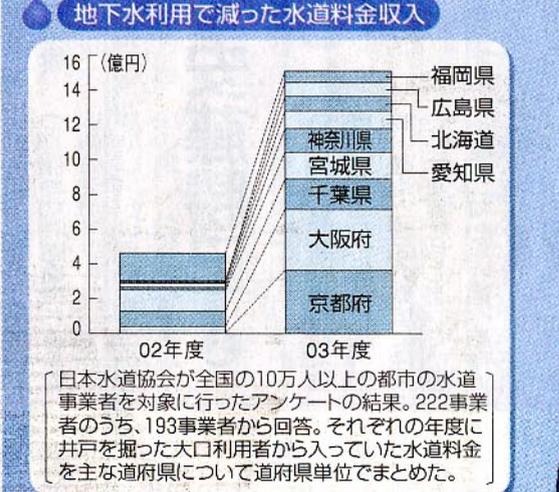
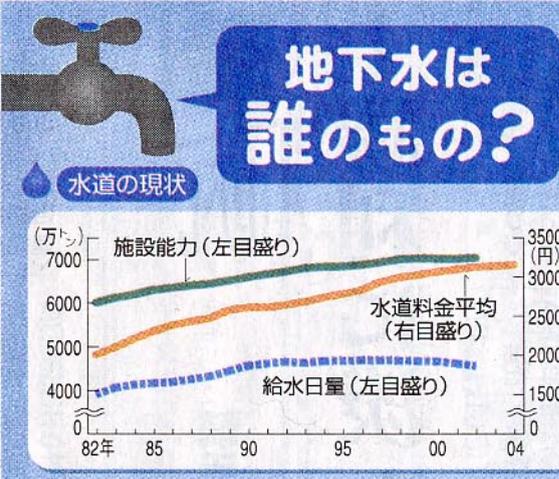
## 地下水が問う水道料金

「井戸水ビジネス」が、地域独自の公営水道事業を揺さぶっている。これまで地盤沈下などを理由に「封印」されてきた地下水を活用するベンチャー企業が急成長。ダム建設を前提に割高な水道料金を設定する自治体は頭を抱えている。環境省も今年度中に地下水の保全と利用について調査を始める。地下水はいったい誰のものか。(松浦新)

大阪市内のターミナル駅近くでは、口径約30センチ、深さ160センチの井戸を掘っていた。地下水ベンチャーのウェルシイ(本社・東京)が、地下水を濾過して、近くのビルに供給するためだ。同社は100メートルを超える深井戸を掘り、地下水をショッピングセンターやホテル、病院などに供給している。井戸の掘削費用が下がったことに加え、膜濾過という高度浄水技術を採用、信用力のある大手商社と組んで急成長している。04年だけで119件の井戸を掘り、97年からの累計は405件に達した。大阪府が確認しただけで、同様の業者は13社あった。

大阪のある大手ホテル幹部は「井戸水に切り替えるだけで何千万円も水道代が安くなりますから、大阪は今、井戸掘りラッシュです」と話す。もっとも、井戸を掘れるのは大口利用者のみだ。大口料金は家庭用の小口料金よりも割高な設定になっているので、市町村などの公営水道事業者にとっては、無視できない減収になる。大阪府水道部は、「いざという時には公営水道を利用できる前提で安い水を使うわけだから、いざと取り」と苦り切っている。

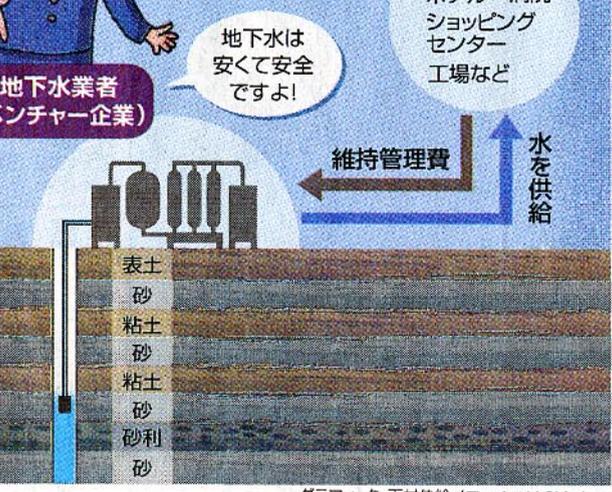
日本水道協会が全国の10万人以上の都市の水道事業者を対象にアンケートをしたところ、



#### 全国の水道代の高低差

| 順位 | 自治体          | 水道代 (円) |
|----|--------------|---------|
| 1  | 宮城県松山町       | 6173円   |
| 2  | 山形県松山町       | 6132円   |
| 3  | 北海道池田町       | 6121円   |
| 4  | 熊本県上天草市大矢野地区 | 6090円   |
| 5  | 北海道夕張市       | 6048円   |
| 6  | 山梨県富士河口湖町    | 700円    |
| 7  | 兵庫県赤穂市       | 829円    |
| 8  | 静岡県大仁町       | 882円    |
| 9  | 静岡県小山町       | 913円    |
| 10 | 山梨県富士吉田市     | 1024円   |

日本水道協会の資料をもとに作成。家庭用で月20ト使った場合の代金



こうした中で滋賀県草津市は地下水との対抗上、大口水道料金を値下げした。2カ月で6千トを超える利用分の料金を1トあたり270円から220円にしたのだ。減収は年間3千万円と見込んでいたが、経費削減などの経営努力で吸収するという。

質貸ショッピングセンターでウエルシイの井戸を利用している大阪府堺市の泉北ビル湖町は700円と、9倍近い

は独占事業で値上げを繰り返してきた。電力でもガスでも、競争をすることで、安く、便利に使えるようになった。公営水道はもっと企業努力をすべきだ」と話す。

松山町はダムが水源の泉営大崎広域水道から水を買っている。70年代に作った計画で想定した供給能力が1日3800トなのに、実際はその半分も使っていない。使わなくても負担をしないといけな

## be Report

### 井戸からダム

一方、水道料が低い富士河口湖町は富士山のわき水を利用して給水している。拠点ごとにわき水があるので、巨大な配管も必要ないという。

井戸水で水道をまかなってきた山形県鶴岡市は、01年にダムが水源の泉営庄内広域水道に切り替え、前後して水道料金を段階的に引き上げた。98年に30%、01年28%。昨年は19%上げて、月20トの料金が3727円と、値上げ前の1.8倍になった。

市内で豆腐店を営む堀達雄さん(40)が使うホースの先には手元で水を止められるシャワーがついている。堀さんは「水道代が高くなって流し放して使えなくなった。冬は水が冷たいので、バケツの湯で手を暖めながら仕事をしていた」と話す。

### 封印より活用

市内にガスを供給する鶴岡ガスの一世代当たりの使用量が1月は4%余り増え、8月は5%程度減った。ダム水は気温の影響を受けやすい。ダムへの切り替えに反対してきた草島進一市議は「市が80年に東海大学と共同でまとめた地下水の調査では、日量25万トをくみ上げても問題ない能力があるとされた。ところが、いまの使用量は日量最大が5万トさへ下回り、減り続けている」と指摘する。

これに対して、鶴岡市水道部は「残念ながら、地下水は調査結果のように豊富ではなく、毎年のように断水を繰り返して市民に迷惑をかけてきた」と反論する。「広域水道の計画を立てたころには、日量最大が7万トを超える必要まで増えるの見込まれていたのに、地下水ではまかないきれないと判断した」

東京都昭島市は、地下水だけで水道をまかなっている。水道料金は都営水道に「二元

化されている他市町が20トで月額2300.1円なのに対して、1554円。同市水道部は「良質な地下水が確保でき、最低限の消費だけで配水できるから安い。水源も豊富で、都営水道が濁水で困っている時でも心配ない。都水への切り替えは今のところ考えていない」と話す。

一方、東京都水道局は現在進めているダム建設などが終わると、1日680万トの水道供給ができるが、これに地下水は含まれていない。水道局は「地下水は汚染されると回復が難しい不安定な水源だ。また、くみ上げすぎると地盤沈下の心配もあるので、くみ上げを規制している。昭島市もこの点を十分に認識して地下水を活用してほしい」と説明する。

これに対して茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター1長の楡井久教授は「地下水は許容範囲を確認しながら使わないと、汚してもよいものになる。封印したことで、ダムを造って巨大な配管をする公共投資のビジネスと結びつき、余った地下水で東京駅や上野駅が浮き上がりかねないおかしな結果が生まれている」と批判する。

環境省は近く、大阪市を中心とした地域をモデルとして、地下水の増減や循環のあり方を確認し、地域の目的にあった使い方をするための調査を始める。5年かけて、都市部と地方など条件の違ういくつかの地域を調べ、公的な管理と利用が可能かどうかを調べる。同省水環境部は「地下水は法的には、土地の所有者がタダで使える『私水』の扱いを受けてきたが、使い方によっては公的な管理ができる部分もあるはず」と説明している。

参考情報 日本の水道の1日平均給水量は97年度の4674万トをピークに減り続け、02年度は4551万トだった。節水型の機器が家庭に浸透したうえ、配水途中の漏水も減った。浄水場を出た水のうち家庭や事業所で使われた割合は、73年度の80%から02年度には92%に上がった。この間に水道の供給能力は、4550万トから7027万トに増えた。